

事例２ ネグレクトのケース

◆気になる状況

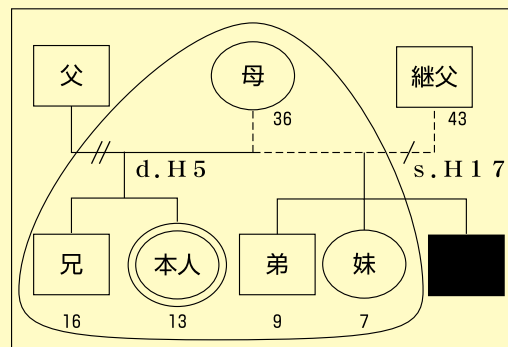
【相談内容】

中学校２年女子（本生徒） 小学校４年男子 小学校１年女子
 家庭の経済的困窮と母親のネグレクト、兄（１６歳無職）の非行問題という環境の中、きょうだい３人が不登校傾向

【経緯と現状】

本生徒が保育所に通所している頃からネグレクトの疑いで見守ってきた家庭である。母親自身、幼い頃から養護施設で育ち、温かい家庭を知らない。しかし、母親なりの愛情を持って関わってきたが、あくまで自分本位の中での関わりであった。

家庭の状況が急に悪化したのは、内縁の男性（継父）と別居した頃で、経済的な困窮と母親の心理的不安定が目立つようになり、その頃から本生徒をはじめ、小４男子、小１女子の欠席も増えるようになった。特に本生徒が中学校へ入学した後、１学期途中からほとんど学校へ登校できなくなり、すべての面で意欲を喪失している状況である。

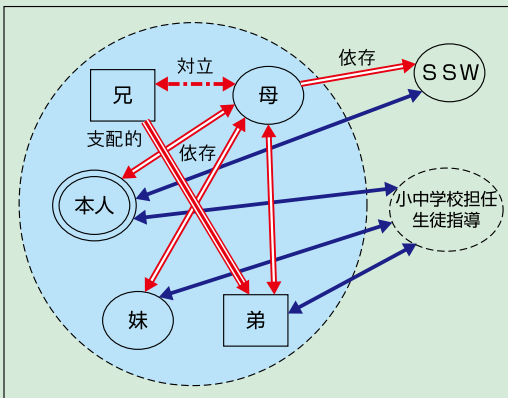


◆アセスメント（見立て）

○**本生徒**：学力は高く、授業態度も良好である。母親を慕っており、会話の中で批判することはない。欠席要因として、心理的側面もあるが、劣悪な家庭環境のため、不適切な衛生管理や食生活による体調不良の問題も考えられる。登校支援を行い、栄養のバランスのとれた給食や、自尊心を高める機会を提供することは、本人の利益につながると考える。

○**小学生２名**：本生徒と共通の課題を有している。

○**母親**：教育への無関心や夜の外出など養育能力に問題がある。兄の非行問題や地域からの孤立による精神的不安定、金銭感覚の欠如やトラブル、就労に対する意欲の低下など、多方面からの支援が必要と考える。



◆当該児童生徒・家庭への支援（役割分担）

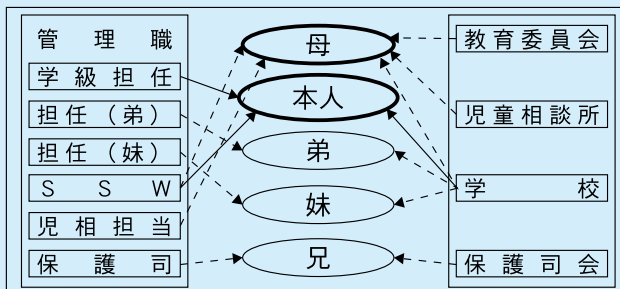
長期目標：家庭環境の安定、健全な学校生活の確保

短期目標：登校支援、生活環境改善への支援

○**学級担任**：母親と連携し、当該児童生徒への登校支援を行う。

○**SSW**：母親への生活支援及び関係機関との連携を行う。

○**管理職・福祉担当・児相担当・民生委員等**：お互いが連携し、当該児童生徒及び家庭への支援を行う。



◆当該児童生徒・家庭の状態の変化（成果等）

本生徒については、SSWの毎日の登校支援等の関わりにより信頼関係が築かれ、ネグレクト等家庭の情報も得ることができた。また、母親との関係も良好になったことで、家庭への働き掛けがスムーズに運び、本生徒の進学やその後の就職など、社会的自立に向けた支援が充実していった。小１女子についても、担任や生活指導担当、SSWの関わりで改善しつつある。今後は、小４男子の体調の回復や、母と兄の就労支援を行うことで、家庭環境を改善し、心身共に健康な生活が送れるよう支援していくことが重要と考える。

◆本事例のポイント

- 母親の教育への関心の低さと、ネグレクトへの対応
- 経済的な環境への支援
- 心理面と家庭環境面への支援の必要性

